



鶏 鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっているわたしパウロ」

聖書(エフェソ書3章1節)

牧師 河合裕志

パウロは自分のことを「キリスト・イエスの囚人」と言っている。どういうこと? 囚人とは「牢屋にとらわれている人、刑務所で服役している人」を言う。以前保護司をしていた時、何か所かの刑務所を訪ねた。静岡刑務所等は保護司会として宮城刑務所等は単独で。高い塀に囲まれたその所で罪を犯した人々が日々更生のための指導・訓練を受けている。誰もそうした所には入ろうとは思わないだろう。自由が大巾に制限され、勿論外にも出られない。

今パウロはイエスの囚人と言う。これはイエスの管理下に置かれている、イエスによって自由が制限されている、ということだろう。目に見える塀はないが、目に見えないイエスという囲いの中で生きる人間ということなのだろう。見えないうちとは聖霊として共にいてくれるイエスであり、その愛の掟ということ。そこに身を置くこと、縛られることをパウロはむしろ喜びとしている、誇っている。

自分はイエスの囚人なんだ。自分は何よりもイエスの意のままに動くのだ。ユダヤ人ではない異邦人にキリストの福音を伝えよ、ということであればそれに従ってどこどこまでも行く。どんな苦しみも迫害も剣も恐れなくて進む。

イエスの囚人となることは逆に他のどんな人の囚人とはならないということ。イエス以外の人の言いなりにはならない、イエス以外の者を恐れないということになる。こうしてパウロはどんな王や総督の前でも堂々と信ずるところを述べた。

東京神学社を建て日本における神学教育に先鞭をつけた植村正久(1858~1925年)の次の祈りはパウロの熱い思いに促されたものだろう。「主なるイエスよ、わたくしはあなたのために生き、あなたのために苦闘し、あなたのために死にます。生きるにしろ、死ぬにしろ、わたくしはあなたのものです」。植村もイエスの囚人だった。

パウロは実際に牢に入れられたり、晩年はローマに囚人として護送されることになるが、自分はイエスの囚人であることを恥じず、むしろイエスを証しする機会となったと喜んでいる。とに角すっかりイエスに捕えられてしまった。それはこの方が、そしてこの方だけがパウロの重い罪を背負って十字架にかかって死んでくれた唯一人の方だと心底思われたから。これ以外にパウロがイエスの囚人となる筋合は何もなかった。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時~7時